
魔法少女リリカルなのは ～抑止の守護者と魔法少女～

駄作者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは ～抑止の守護者と魔法少女～

【Nコード】

N8931X

【作者名】

駄作者

【あらすじ】

抑止の守護者だった青年は、気がつくともったたく世界から切り離されていた。

抑止の守護者から意図せずに解放された青年の物語

プロローグ

それは、ひとりの青年の物語。

彼は、この世の誰もが幸せであってほしいと願った。

すべての少年が一度は胸に抱き、捨てていく幼稚な理想

——だが、彼は違った

すべての命が犠牲と救済の両天秤に載っているのだと悟り、決して片方の皿を空にできないと理解したとき彼は天秤の計り手たろうと志を固めた。

ドガン

「——」

より、多く、より確実にこの世界から嘆きを減らそうと思うなら、とるべき道は他にはなかった

「な…んで…」

ドキュン

カチャ

「——」

それは多数を生かすために少数を殺し尽くすという行為。故に彼は誰かを救えば救うほど、人を殺す術に長けていった。

手段の是非は問わず、目的の是非は疑わず、ただ無謬の天秤たれと彼は分け隔てなく人々を救い、分け隔てなく殺していった。

だが、彼は気づくのが遅すぎた。

すべての人を等しく公平に尊ぶならば、それは誰ひとりとして愛さないのと同じこと。

若い心を凍らせ、壊死させ血も涙もない計測機械として自身を完成させていたなら苦悩は無かっただろう

（――すまない）

だが、彼は違った。

誰かが歓喜する笑顔は彼の胸を満たし、誰かの慟哭する声は彼の心を震わせた。

無念の怨嗟には怒りを共にし、寂寥の涙には手を差しのべずにはいられなかった。

人の世の断りを越えた理想を追い求めながら、彼はあまりにも人間過ぎた。

やがて、彼は理想に殉じ、英霊にさえ上り詰めた。

「——これで、誰かを救えたのか？」

いくつもの亡骸を見下ろし、呟く。戦場におよそ、似つかわしくない金色の髪に、緑色の瞳、着ているダークスーツで相まって、まるで男装の麗人のような出で立ちだ。

亡骸のなかには、まだ十代後半という少女もいた。

生きていた頃は不屈のエースとよばれていた少女やその戦友も含まれている。

「——」

と、そこで彼の体は次第に薄れ始めていく。どうやら、役割を終えたらしい

（抑止の守護者、か）

抑止の守護者

それは「人類の自滅」が起きるときに現界し、「その場にいるすべての人間を殺戮しつくす」ことで人類すべての消滅という結果を回避させる最終安全装置。

「いいさ、これで人が救えるならな」

そういった彼の顔は、いまにも泣きそうであった。

一話

――ミッドガルドの某所

「ほら、ルーク！おきてください！！」

「ふあ、あ」

金色の髪を後ろのほうでひとつに纏めた十三歳くらいの少女が、茶色の髪をした青年を起こそうと体をゆすると、しばらくしてその青年はけだるそうに起き上がる。

「おはよ、リサ」

「はい！おはようございます、ルーク！！」

ルークと呼ばれた青年の挨拶に元気よく答える少女の名前はリサ。そして、このけだるそうな青年の名前はルーク・H・エインズワースといった。

「朝ごはんも出来てますよ！」

「ありがとう」

寝巻きをきたまま、食卓に着くとそこにはリサが作ったのだろう、おいしそうな朝食が並んでいた。
ルークは席に座るともしゃもしゃと食べていく。

すると、次第に寝ぼけていたルークの表情もしっかりとしたものに

変わっていく。

「――ふう、ごちそうさん」

「お粗末さまです!!」

食器を、流しにもどし水をかけると、ルークは自室に戻る。すると、当然のようにリサが食器を洗い始める。

しばらくすると、管理局の制服に着替えたルークが現れる。

リサはというと、すでに同じようなデザインの服に着替えていた。

「さて、いくか」

「はい!!」

ルークの声に元気にリサは答え、それに少し微笑むと家をでた。

＊

「――これも仕事か」

「ルーク、がんばってください」

出勤早々、ルークは上司から任務をまかされた（押し付けられたともいう）ようだ。

任務内容は、次元犯罪者の捕縛。

ルークの所属する陸士警備隊ではよくある任務だ。

「ルーク、行きますよ？」

「あいよ、セットアップ」

『セットアップ』

短い電子音とともに、彼の姿はバリアジャケットに変わる。

黒いマントのようなものを左腕につけ、白と青の上下に足にはグリーブを装着している（早い話が、聖剣の刀鍛冶のルークの格好）

リサも、白と黒の袖なしの服に、茶色の短パン、頭にはちょこんと小さな帽子というかわいらしいバリアジャケット姿に変わっている。

「――ん？」

「戦闘、始まっているみたいですね」

リサのいうとおり、すでにさきでは黄色の魔力光が煌いていた。

「――なあ、リサ」

「だめですよ？ 私達も行きましょう、給料泥棒なんていわれないように」

リサの正論にもっともだとうなずき、官給品のデバイスを改造した自分のデバイスの鞘に手をかけるルーク。

「リサ」

「わかっていますよ、援護はお任せです♪」

リサの手にはリボルバー式の拳銃とモーゼルと呼ばれる銃を弄り、デバイス化した銃を握って微笑んでいた。
これで、ルークは後ろの心配をしなくていい。

「――」

『ブリッツアクション』

無言で、鋭く前を見据えると刀の柄を握り、一気に加速する。

「な、なん・・・」

すれ違いざまにひとり、切り捨てる。

「て、てめえ!？」

「――鈍い」

ようやく敵はルークの存在を確認し、手にした粗悪品の斧型デバイスを振り下ろす。

――が、それはすんでのところでルークに避けられる。

「がっ!？」

ルークに胴斬りにされ、痛みで悶絶する男。
それで、全員がルークの存在に気付く。

「や、やっちまえ!！」

リーダー格らしき、男がけしかける。
しかし、いくら犯罪者とはいえ経験はあまり無い。

「があ!?!」

「ぐわあ!?!」

さっきの男のようにルークに攻撃を避けられては、切り裂かれてど
んどん数を減らしていく。

「もらったぜ!?!」

運良く、背中を取れたとしても

「がっ!?!」

次の瞬間に、すこし後ろに離れたリサに打ち抜かれる。
そして、リサに注意を向けた敵は、すぐさまルークに両断される。

しばらくすると、あっという間に敵はルークとリサによって無力化
されていた。

終わった・・・二人がそう思ったとき

「くっ!?!」

天井をつく破り、さきほどの黄色の魔力光をもつ少女が姿を現す。
その少女をルークは・・・いや、リサも知っていた。

おそらく、管理局の殆どが知っているだろう。

「はぁ！！！！」

「なっ！？・・・きゃああ！！！」

史上最年少の執務官・・・フェイト・T・ハラOWN。

しかし、彼女はいま、得物の戦斧を弾かれ、窮地に立たされていた。

しかし

「えっ？」

「――」

そこに割って入った存在がいた。

――ルークだ。

相対していた男のハンドアックスを刀で切り裂くように防いでいた。

「なっ！？」

「――」

無言で、斧を切り裂くとそのまま回転し、勢いを殺さずに横一線に切り裂く。

ヘタッ

その光景を、ただ彼女は見つめていた。

「――大丈夫か？」

「は、はい!!」

そして、少女は気付いた。

ルークの片目・・・そこに光が無いことに。

「あ・・・」／／／

恥ずかしいことに、少女は始めての命の危機に、腰が抜けて動けなかった。

「・・・フツ、たいした執務官殿だ」

「う、うるさい!!」／／／

恥ずかしさから、少女は叫んでしまう。

「――それだけの元気があるなら大丈夫だな。リサ」

「はい!!」

いつのまにか、ルークの傍らにいたりサが少女に治癒魔法をかける。

「あの、助けてくれてありがとうございます・・・」

「――一気にするな。任務のついでだ。行くぞ、リサ」

「はい!!」

素っ気無くいうと、ルークはその場を後にした。

少女・・・フェイトはただ、男の持っていた・・・ルークに切り裂かれたデバイスを見ていた。

凄い・・・

自分にはできない。

ただ、はじめてみた自分より遥か高みにいるあの青年のことを考えていた。

そして、気付いた

「あっ！あの人の名前と所属、聞いていない・・・」

と、すこし途方にくれるのだった。

一話（後書き）

すこしプロログと関係ないみたいですけど、折々関係が出てきますのでよければ着てみてください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8931x/>

魔法少女リリカルなのは ～抑止の守護者と魔法少女～

2011年12月25日16時53分発行